

1 行動計画に基づく平成27年度の取組状況

【I 生き方デザイン形成支援】

1 生き方デザイン形成(自分づくり)の支援

- (1)世代間・異年齢間交流の機会の促進
- (2)居場所づくり事業の充実
- (3)インターネット・スマートフォンによる弊害や薬物乱用の防止に関する取組の推進
- (4)キャリア教育の多面的推進及び就労体験の機会の提供

2 青少年のチカラを活かした社会づくり

- (1)青少年の自主的活動の支援
- (2)男女共同参画を進める取組の推進
- (3)市政や地域コミュニティへの参加の促進

3 情報共有のしくみづくり

- (1)青少年活動センターにおける青少年の体験・参加活動情報の集約・再発信
- (2)青少年活動センターから学校等への積極的な情報提供

【I 生き方デザイン形成支援】

1 生き方デザイン形成の支援

(1)世代間・異年齢間交流の機会の促進

青少年活動センターにおける地域交流事業
46件(平成27年度実績)

⇒65件(平成32年度目標)

(参考:57件(平成26年度実績))

主な事業名	事業概要等
青少年活動センターにおける地域交流事業の推進	東山(東山フェスタ) ものづくりや表現活動を中心としたイベント等。参加者1,317名
	下京(しもせいフェスタ) 舞台発表, ブース出店等。参加者525名
	南(フリーマーケット) 地域住民がセンターに来館するきっかけづくりのフリーマーケット。参加者1,411名
学生ボランティアにおける学校サポート事業の推進	教職を目指す学生や高い専門的知識・技能をもった学生を受け入れ:219校・園(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・総合支援学校) 教育活動の支援を行うことにより, 教育活動の一層の活性化を図った。 活動回数:26,720回
学校開放事業	(学校コミュニティプラザ事業) 全市13ゾーンにおいて, コンサートやふれあい祭りなどの子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方が交流できる事業を開催している。 利用人数:90,813人 利用回数:5,545回

(2) 居場所づくり事業の充実

主な事業名	事業概要等
青少年同士が交流し、情報共有できる機会の提供	北(北こみまつり) 障害者との交流、コーラス・ダンス・ゲーム等の発表。参加者455名
	東山(ものづくりワークショップ) 陶芸や木工等を体験する連続講座のワークショップ。参加者197名
	南(20代話せるプログラム) 飲食を通じた20代の交流プログラム。参加者156名
青少年の企画・運営による「ユース・シンポジウム」の開催	ユースシンポジウム2015 参加者345名 「人生はサバイバル！！」 第1部 対談会「これが私の生きる道」 第2部 「サバイバル」をテーマに経験談を聴き合い、自分を振り返る(対話型ブースを展開) 第3部 交流会

(3) インターネット・スマートフォンによる弊害や薬物乱用の防止に関する取組の推進

主な事業名	事業概要等	
青少年活動のリーダー、指導者の養成・研修の取組の充実	中京(ユースワーカー養成・資格講習) 若者支援の専門スタッフ養成の基礎研修。参加者24名	
インターネット・スマートフォンに関する正しい知識の普及のための広報の充実	ケータイ教室を実施 携帯電話市民インストラクターの養成・活動 スマートフォン・ゲーム機等の問題について、小中学生が主体的に課題を理解して自ら解決策を考え、保護者の課題意識の向上及び家庭等での行動の支援にもつながるプログラムを作成した。	ケータイ教室:143校 啓発講座 75回 学習プログラム「みんなで考えよう！スマートフォン・ゲーム機とのつきあい方」の作成
若者向け消費者教育冊子の作成・配布	消費者教育教材を小中学校、大学等に配布したほか、消費者教育教材「買い物シュミレーション学習キット」を作成した。	「めざそう 買い物名人」を市内全小学校の新小学5年生に配布 「めざせ！消費者市民！」を市内全中学校の新入生に配布 「知っ得！消費者トラブル 京都買い物語」を作成(25,000部)し、市内大学等に配布 「買い物シュミレーション学習キット」を作成(200セット)
大学生への消費生活情報の提供		

(4)キャリア教育の多面的推進及び就労体験の機会の提供

主な事業名	事業概要等
スチューデントシティ・ファイナンスパーク事業の推進	<p>施設の中に実際の「街」を再現し、子どもたちが現実の生活により近い環境・条件の中で、伝統文化や環境保全等、京都市独自の視点を盛り込んだプログラムによる体験活動を通して社会の働きや経済の仕組み、社会と自分との関わりなどを学んだ。</p> <p>スチューデントシティ学習:全市立小学校165校、10,358名が学習実施 市立中学校・総合支援学校の計59校、5,867名が学習実施</p>
「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業の充実	<p>中学生がそれぞれの興味・関心に応じた勤労体験・職場体験などの社会体験活動を、校区を中心とした地域において実施した。</p> <p>全市立中学校72校と総合支援学校5校の計77校、9,802名の生徒が3,618事業所の協力のもと体験学習を行った。</p>

2 青少年のチカラを活かした社会づくり
(1)青少年の自主的活動の支援

青少年活動センターで活躍するボランティア数
763人(平成27年度実績)
⇒970人(平成32年度目標)
(参考:828人(平成26年度実績))

主な事業名	事業概要等
青少年活動センターでのボランティア活動への参加促進	北(地域活性ボランティア) 地域のイベントへの参加や清掃活動。参加者328名
	南(ボランティア体験VoM'S) 地域のイベントへの参加や清掃活動。参加者905名
	伏見(にほんご教室) 日本語を母国語としない人たちへの日本語学習支援活動。参加者489名
大学(学生)と地域の交流の促進	<p>「学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業)」において、大学と地域が一体となったまちづくりや地域の活性化を目的とした事業に対して支援金を交付した。また、学生のサークル活動と地域のお祭などをつなげる「むすぶネット」を展開した。</p> <p>学まちコラボ事業採択件数:14件 むすぶネットマッチング数:24件</p>

(2) 男女共同参画を進める取組の推進

主な事業名	事業概要等
男女共同参画センター(ウィングス京都) を拠点とした、男女共同参画講座の取組による人材の養成と啓発・情報提供の充実	<p>男女共同参画についての理解を深めるための学習機会として、講座や講演会を開催した。</p> <p>①みんなで考える男女共同参画講座 男女共同参画についての基礎知識を身に付ける。</p> <p>②各種講座・講演会 生活に密着した様々な問題を取り上げ、男女共同参画の視点を養う。</p> <p>③各種団体との連携事業 大学や企業と連携し、より深い内容を学習する。</p> <p>④人材育成講座 市民活動活性化の支援や人材育成について学習する。</p> <p>①定期開催:12回 出前講座:26回 ②講座:9講座 講演会:2回 ③講座 4講座 ④講座 2講座</p>

(3) 市政や地域コミュニティへの参加の促進

青少年が参画している附属機関等の割合 11.7% (平成27年度実績) ⇒20% (平成32年度目標) (参考: 12.2% (平成26年度実績))

主な事業名	事業概要等
青少年の意見を市政に反映する機会の推進	<p>青少年が市政やまちづくりに参加する機会を増やし、市政においても、青少年の視点と意見を反映させ施策をより充実したものとするため、「青少年モニター」制度を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年モニターの募集: 33名 アンケート: 2回 ワークショップ: 2回実施
	<p>東山区役所(まちづくりカフェ@東山)</p> <p>まちづくりに関心がある人が集い、活動。参加者324名</p>
	<p>上京区役所(学生パワーを活かした福祉のまちづくり事業)</p> <p>福祉に関する講習の学生たちによる企画・運営。(子どもまつりで防災学習指導などを実施)</p>
	<p>右京区役所(右京区ジュニア円卓会議)</p> <p>子どもの目線から右京区のまちづくりを検討。参加者28名</p>
区役所主催・共催事業における学生ボランティアの参加促進	<p>東山区役所(東山区民ふれあい事業におけるボランティアの活用)</p> <p>リユース食器運営ボランティアとして活動。参加者28名</p>

3 情報共有のしくみづくり

(1) 青少年活動センターにおける青少年の体験・参加活動情報の集約・再発信

ユースアクション認証事業数 165件 (平成27年度実績) ⇒190件 (平成32年度目標) (参考: 177件 (平成26年度実績))

主な事業名	事業概要等
ユースアクションプランロゴマークを活用した事業の情報発信	<p>青少年の事業参加を促進するため、ユースアクションプランの趣旨に基づく事業を募集・認証する制度を運用し、認証事業を取りまとめたりーフレットを年2回発行するとともに、平成25年7月からインターネットでの配信を行った。</p> <p>認証事業: 165件 リーフレット発行部数: 40,000部</p>
青少年による情報発信の機会の充実	<p>東山(情報誌「ヒガシガシ」)の発行</p> <p>ボランティアの取材・編集による情報誌での情報発信。年4回発行(各2,000部)</p> <p>伏見(ニュースレター「ふしみん」発行)</p> <p>青少年が作るニュースレターによる情報発信。年3回発行(各2,500部)</p>

(2) 青少年活動センターから学校等への積極的な情報提供

主な事業名	事業概要等
ユースアクションプラン ロゴマークを活用した 事業の情報発信＜再 掲＞	青少年の事業参加を促進するため、ユースアクションプランの趣旨に基づく事業を募集・認証する制度を運用するとともに、認証事業を取りまとめたリーフレットを年2回発行し、中学・高校・大学等への配布を行った。
大学学生と地域の交 流の促進＜再掲＞	学生のサークル活動と地域 のお祭などをつなげる「むす ぶネット」を展開した。 ネットマッチング数：24件

【II 困難を有する青少年がよりよく生きるための支援】

1 早期対応

- (1)青少年施設の居場所機能の強化
- (2)学校と連携した早期の情報提供と高校との連携強化

2 解決支援

- (1)子ども・若者支援地域協議会の枠組みによる支援の重点取組
- (2)子ども・若者育成支援を行う民間団体との連携強化
- (3)子ども・若者総合支援の周知拡大
- (4)適切な支援を行うための支援者の資質向上

1 早期対応

- (1)青少年施設の居場所機能の強化

主な事業名	事業概要等
青少年活動センターにおける心の「居場所」づくり事業の充実	北(居場所づくり事業「ごぶS AT」) 料理, ゲームを通じた交流。参加者179名
	中京(居場所事業「街中コミュニティ」) 料理, ゲーム, 外出等を通じた交流。参加者295名
	東山(ヒガシヤマDEものづくり) 創造工芸室の利用促進と利用者相互の交流。参加者512名
	伏見(アフターはふしみんへ) 園芸作業を媒介とした交流。参加者91名
青少年活動センター等における中学生学習支援事業	生活保護世帯や生活困窮世帯において進学を目指す中学生(主に3年生)を対象に, BBS会及び地域のNPO等の団体の協力を得て, 大学生を中心とするボランティアが中学生の学習支援を行った。 北, 左京, 中京, 山科, 南, 右京, 西京, 洛西, 伏見, 深草, 醍醐

- (2)学校と連携した早期の情報提供と高校との連携強化

若者サポートステーションの支援により就職した人数
 130人(平成27年度実績)
 ⇒140人(平成32年度目標)
 (参考:153人(平成26年度実績 ※進学等進路決定者を含む))

主な事業名	事業概要等
進路未決定状態での中学卒業者等の相談窓口への誘導と支援	進路未決定状態で卒業又は中退する場合や, 将来のつまづきにより支援が必要となる場合等に, 早期に継続的な相談・支援に結び付けられるよう, 「子ども・若者相談のしおり」を作成し, 市立中学校3年生及び市立高校1年生全員に配布するほか, 府内の国立・府立・私立の高等学校及び通信・サポート校等へ配布した。
若者サポートステーション事業の推進及び高校連携専用窓口の設置	京都若者サポートステーションに高校連携専用窓口を設置し, 中退者等をサポートステーションへとスムーズにつなげるとともに, 必要に応じてキャリアコンサルタントが高校を訪問し相談に対応する。 洛陽工業高校(全日制), 伏見工業高校(全日制, 定時制), 西京高校(定時制)に派遣: 延べ94回 個別相談件数: 延べ424件

2 解決支援

(1) 子ども・若者支援地域協議会の枠組みによる支援の重点取組

子ども・若者総合支援事業の取組により、自立に向け改善した青少年の割合
44%（平成27年度実績）
⇒70%（平成32年度目標）
(参考:64%（平成26年度実績))

主な事業名	事業概要等
子ども・若者支援地域協議会における取組の推進	<p>ニート、ひきこもり、不登校など社会生活を円滑に営むうえでの困難を有する子ども・若者を総合的に支援するため、関連する分野の関係機関で構成する「子ども・若者支援地域協議会」を運営した。</p> <p>また、協議会における支援全般についての主導的役割を担う子ども・若者指定支援機関（公益財団法人京都市ユースサービス協会）と教育、福祉、保健、雇用等の関係機関や民間団体との連携により、子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援を行った。</p> <p>協議会（支援コーディネーター）による支援件数:108件</p> <p>支援コーディネーターによる支援活動 ・本人や家族等との面接等による継続的な相談 ・ひきこもり等のケースへの訪問支援や手紙、メール等による継続的な支援 ・関係機関との個別ケース検討会議等の実施 ・支援機関への誘導等のための同行支援、支援の進行管理</p>

(2) 子ども・若者育成支援を行う民間団体との連携強化

主な事業名	事業概要等
NPO等の民間支援団体との連携強化	<p>子ども・若者指定支援機関が、NPO等民間団体の実施する子ども・若者の社会的自立に向けた新規・充実事業に助成を行う「NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業」を実施するとともに、NPO等民間団体による活動紹介・交流会を開催した。</p> <p>NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業 11団体に対して助成</p> <p>NPO等民間団体による活動紹介・交流会 参加者数216名</p>

(3) 子ども・若者総合支援の周知拡大

主な事業名	事業概要等
関係機関と連携した子ども・若者総合支援の周知拡大	<p>関係機関との連携の下、様々な機会を活用して、普及啓発活動に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者総合相談窓口のチラシの区役所等への配架、各局等における広報物への掲載 ・市民しんぶん、電光掲示板等による広報 ・講演会及びNPO等民間団体による活動紹介・交流会の開催(11月) ・普及啓発物品(ポケットティッシュ)の作成、配布

(4) 適切な支援を行うための支援者の資質向上

主な事業名	事業概要等
子ども・若者総合支援事業研修	<p>子ども・若者支援に携わる支援者の資質向上及び関係機関の連携強化等を目的として、子ども・若者支援地域協議会の構成機関に所属する支援者とNPO等民間団体の支援者を対象にした研修会を開催した。</p> <p>開催回数:3回 延べ参加者数:161名</p>
スーパーバイズの実施	<p>子ども・若者総合支援事業の個別ケースの支援を展開する中で、子ども・若者指定支援機関の支援コーディネーターや子ども・若者総合相談窓口相談員が、心理及び社会福祉等の知識の補完やアセスメント能力の向上を図るため、専門家から助言・指導を受けている。</p> <p>実施回数:22回</p>